

学校 教育 目標	「夢中がいっぱい左近山の子」～つながる学び(知)・つながる仲間(徳/体)・つながる地域・未来(公/開)				
	○自ら問題を見付け、見通しをもってよりよく解決する力を育てます。(知) ○自分を律する態度と人を思いやる優しさを持ち、自他を大切にすることを育てます。(徳) ○規則正しい生活を心がけ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○よりよい社会を創るために、地域とともに、自ら考え実践する力を育てます。(公) ○多様性を尊重し、未来を見据えて、共に生きていく力を育てます。(開)				
学校 概要	創立 8 周年	学校長 長谷川 利恵	副校長 大嶋 智子	2 学期制	一般学級: 19 個別支援学級: 6
	児童生徒数: 639 人	主な関係校: 左近山中学校・本宿中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	左近山中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <共に支え合う力> <社会や未来とつながる力>	左近山中学校 左近山小学校	自分で発見 みんなで解決 協力できる左近の子 ・本ブロックで育成を目指す三つの資質・能力をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科等において、テーマを意識した授業を展開する。ブロックで年2回実施する。[9月25日・11月13日⇒12月17日で調整予定] ・児童生徒の交流日[10月16日]に、6年生が中学校の授業を参観し、部活動を体験する。

中期 取組 目標	○多様な個性や能力を尊重し、子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校にします。 ・伝え合いを大切にしながら、主体的に学習できる授業づくりを推進し、総合的に学力を向上させます。 ・一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。 ・地域材を活用して、まちの「人」とつながり、豊かな体験を通して、まちとともに心を育てます。 ・目標に向かって力を合わせ、分かり合い、助け合うことを通して、ともに学び育つ土壌をつくります。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①縦割り活動の回数を確保し、充実を図る。またY-Pプログラムを中心に、活動を選ぶことでねらいを絞り、計画の簡略化を図る。②特別支援学校との交流の質的向上を図る。芸術鑑賞会や外部と連携した授業を計画することで、児童の豊かな心の育成を図る。
担当 心の教育部	
生きて はたらく知	①「確かな言語能力の育成に迫る資質・能力の系統表」を全職員で活用し、達成への振り返りを行いながら授業改善に努める。②「交流の役割表」を教室側面に掲示・活用し、教師も児童も交流の姿を意識できるようにする。
担当 研究・研修部	
未来を創る思い	①地域でふれ合う活動を学年暦に位置付け、「地域人材バンク」の活用を図りながら実践に努める。②自分らしい夢や目標をもてるように、様々な分野で活躍する人や身近な人(モデル)と出会う機会を設定する。
担当 教育課程部	
特別支援教育	①課題をかかえる児童についてアセスメントを行い、必要に応じて個別の教育支援計画・指導計画を作成し、積み重ねていく。②研修を通してユニバーサルデザインについて理解を深め、学校全体で指導と環境整備の両面で取り組んでいく。
担当 児童指導部	
児童指導	①「めざそう左近山の子」を月の生活目標にして、学校全体で取り組む。「左近山スタンダード」を毎週の学年研でも取り上げて日常的に振り返り、改善する。②子どもの社会的スキルよこはまプログラム年間計画を基に支援検討会を実施し児童の課題解決能力を高める指導を進める。
担当 児童指導部	
健やかな体	①新体力テストの結果を参考に、体力向上1校1実践運動(体力アップや児童集会等)を行うとともに、家庭と連携して、運動および生活習慣の改善を図る。②校内研修に体育科実技研修を位置づけ、体育科の授業改善を図る。
担当 体育部	
担当	
担当	
いじめへの対応	①「いじめはいけないこと」を学校全体で共有、いじめや差別を許さない毅然とした対応をする。②学年いじめ防止会[週1回]、いじめ防止委員会[月1回]、児童教育相談[年2回]を継続し、いじめの未然防止に努め、いじめに対する教師の感度をさらに高める。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①採用5年目以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダー・ベテランがかかわりながら月1回の活動を継続して行う。②研修内容を精選し、実施時期を考慮して研修計画を立案する。③会議の効率化を更に進め、目的や終了時刻を明確にした運営に努め、働き方改革を進める。
担当 研究・研修部及び主幹会	